



河内名所圖會

前篇下

ル 4
2472
3



古市郡

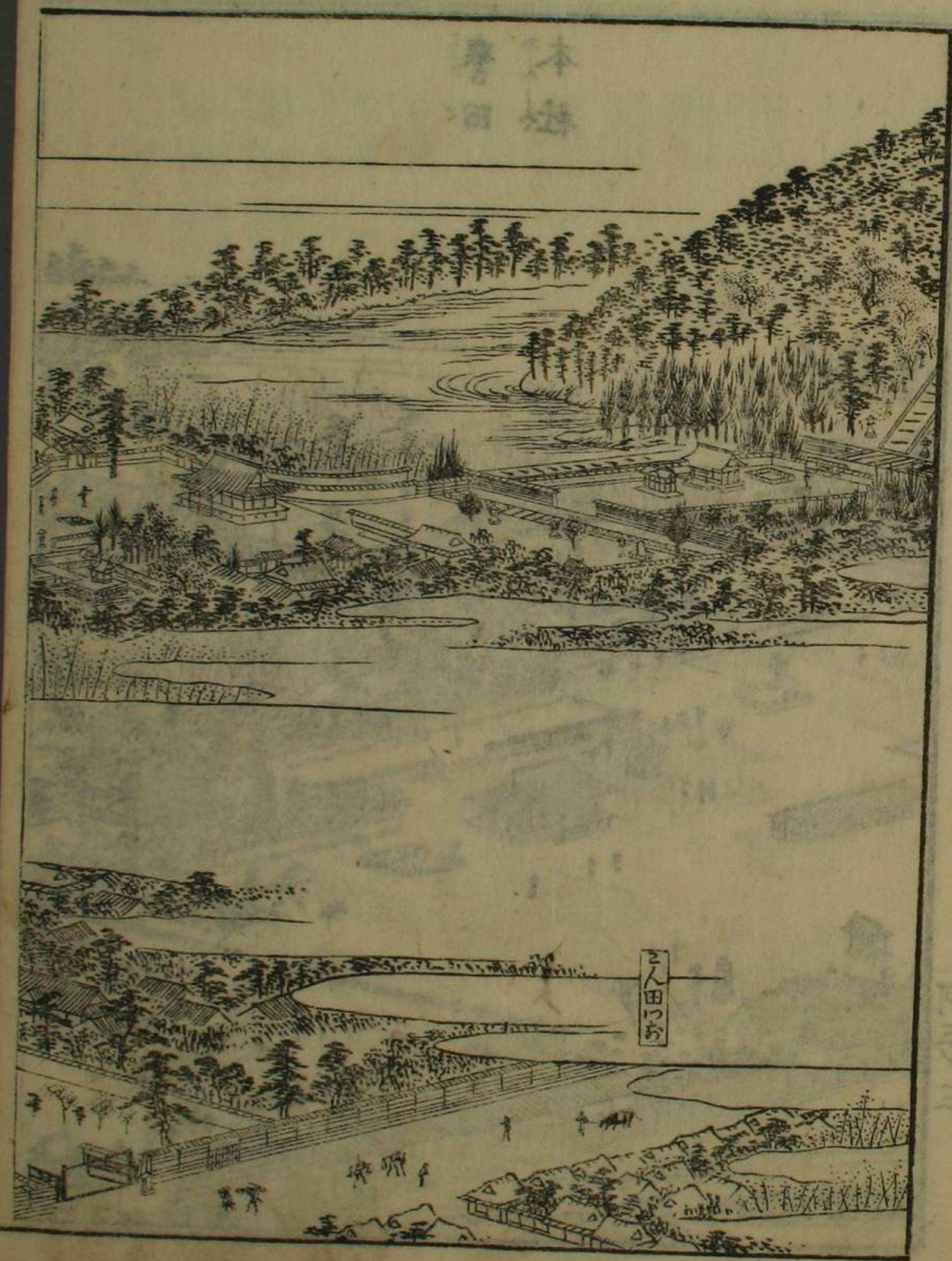
譽田八幡宮
 關帝廟
 石反橋
 長沙八幡宮
 羽家山
 矢坂山
 善法寺趾
 白鳥陵
 惠我市
 高屋神社
 輕皇子墓
 駒谷
 當摩倭踰
 麻福田丸古蹟
 本社
 弘法石塔
 綾杉
 應神天皇陵
 市經子
 景向松
 流鏑馬跡
 長野山
 魏若堂
 龍池
 安閑天皇陵
 實壽寺
 戸苧池
 金剛輪寺
 飛鳥川
 物部飛鳥
 觀音堂
 二月石
 放生會
 興院寶器
 一家山
 道風故居
 明星水
 太政官符
 山田皇女墓
 清寧天皇墓
 井德院
 補正成塔
 永手墓
 飛鳥戸神社
 飛鳥戸造

飛鳥假宮
 壺井八幡宮
 安宿郡
 於賀美神社
 大黒寺
 通法寺
 大黒石
 壺井水
 上社
 頼義魂舎
 片敷山
 行者堂
 開山堂
 玉手山
 伯太姫神社
 天王祠
 名産菖蒲
 博多川
 國見丘
 鎮守
 安福寺
 曼荼羅堂
 鐘樓
 伯太彦神社
 慶長戰場
 枯栖岳
 春日神祠
 原溪
 頼信墳
 觀音堂
 義家墳
 壺井權現
 神寶
 鎮守
 經堂
 龍眼肉櫛
 尾州公廟
 郷躑尾

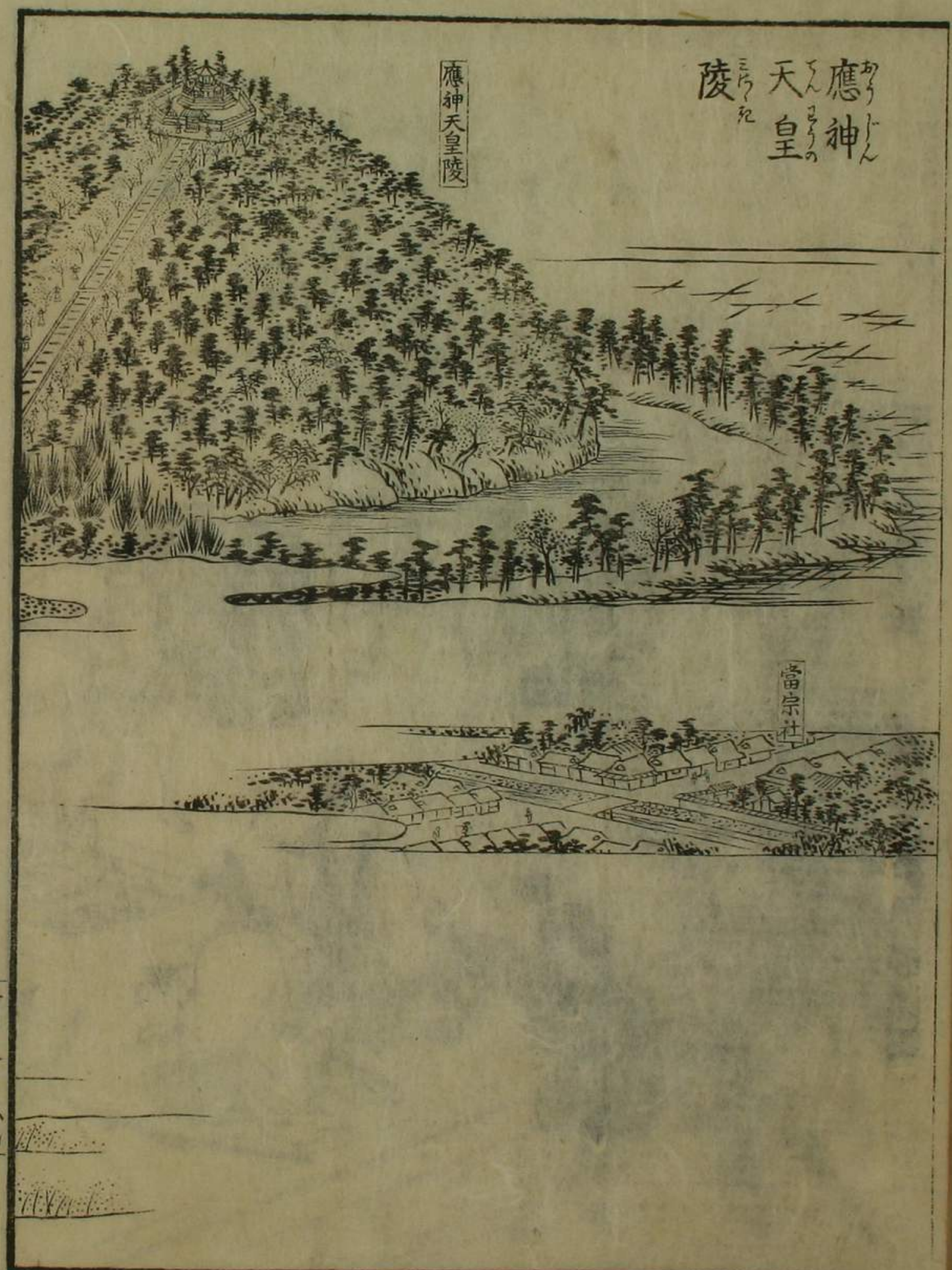
譽田の
 唐紙治る
 は地の名物
 うらあけ
 これも
 軍神の
 雷鳴
 いづく
 いやまひ

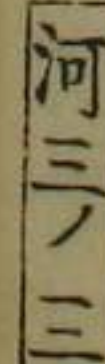


御唐紙治師

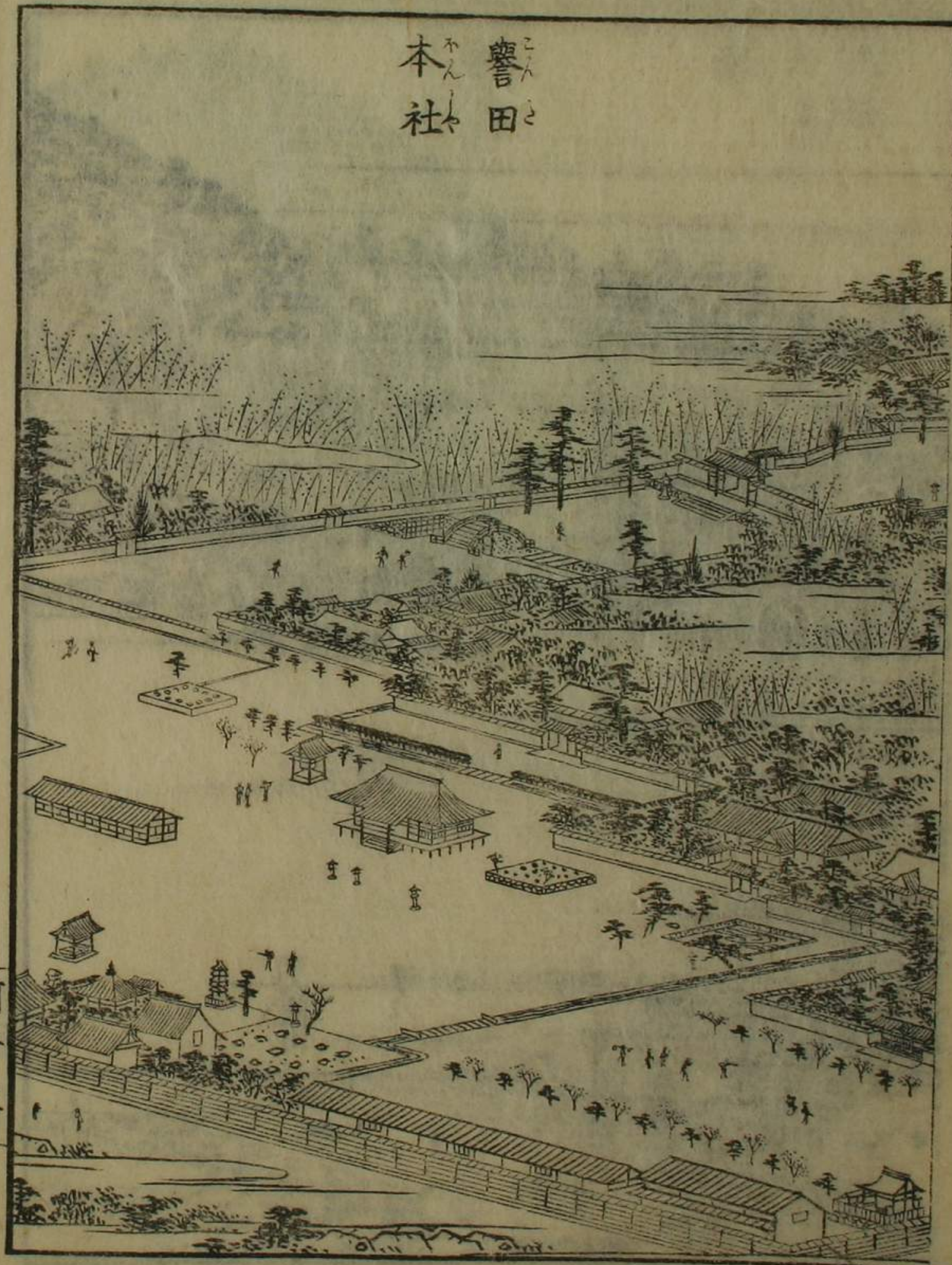


河三ノ貳





本ほん社しゃ 鑒かん田でん



天皇大和國高市郡橿原縣爲豐明宮小皇居一移以御在位四拾
壹年聖壽百十歳以て同濟字四拾一年の春二月十五日崩御小津遺詔
によろ長野の山陵小藏を以て小津父仲哀天皇小津字三韓より救百萬
騎を率朝政ある天皇五萬騎を引率く穴戸國豐浦宮小劫死異
賊退治の軍議あり三韓の大將塵輪より者黒雲小棄して日本みりり
人民を殺さ率救を其時帝安倍高九令九次從武内弓矢副將
少して自津弓矢取箭を射し射を多し忽塵輪が首被射斬して亡
小あり其毒氣玉體小恙ありて津壽も危く皇妃神功皇后小勅して
曰汝を將軍より異國に退封さる胎内小妊一いち子なれを降
誕の後より一實作小即べとて遺詔ありて同濟字九年二月六日
聖壽五十二歳に於て筑紫橿日宮ありて崩御小皇后は有小妹
三韓退治の爲小救万の軍勢と率く異邦小おとしむる其時白髮の
老翁より皇后小津妹はる門司國に遷る香椎の邊に所小

着せ給ふの老翁申さる鹿島と云ふ安曇儀良を申さるのあり
海中に久しく棲み案内公若る者なれをわき公召て龍宮小
洗より干珠満珠を献る龍王小得多しこれとて三韓
退討ありて勝利疑ひありて孝仁皇后諸一わいさる儀良公
何とて召さるや翁云は事も海波と申拜樂を特小愛しより
海よ小棄を擲く拜一め給ふ儀良速小来るべ一即供事
の人々に喜樂公奏さる翁拜より儀良與小棄して来り久し
海中小在りれを與ふる魴蛇ふとむ一やを討て津衣を神めて
顔公鷹い龜ふのりて希ふ其より儀良案内者よりて皇后小
津妹豊姫を便しとて遣されり是を竜王よりかの兩顆公持が
られり皇后則四十八艘の軍船を繰りて異域小渡り秋紀近く
漕寄させまげ干珠は海上へ投入るを漫々る瀬水は雲珠
に入る陸路のめ一三韓の軍勢何れ思ふもねく悉知とて

倭船を目撃し如て其間不敵を棄ひて相圖はしめし
滿珠江海上へ投入し人を潮水初め百倍して四方より涌出れし三
韓の軍勢潰れし溺死し異國に安く候へしを其の國日本
國に渡ひて永く年々調貢を奉るは即ち老翁を任ずる神
々地神五代鸕鷀草葺不合尊の神事之又儀良也やいふ陸
少て藤原明神大和より春日の神即武甕槌命之皇后筑紫に
沛凱陣まゝ十二月四日辛卯日小應神天皇降誕し
今小於く卯日辰日と云 仲哀天皇の嫡后大仲姫の皇子麿坂
忍熊の二王子皇后祓祓さんや侍りけり武内宿禰を子と抱きて
南海より紀伊國小戸に到りて二王子と皇后やとて臧へ先帝を
沛遺勅ふより沛年三十一歳と申小即位し沛治世六十九年
聖壽一百と申大和國高市郡磐余稚櫻宮より崩し中皇子ハ
四葉にく皇太子小立せ給ひ沛年七十一歳と申小即位し沛治

應神天皇也申さる 仲哀帝弟四皇子之治世四十一年妃八人男女
沛子十九人沛代小初と文字より衣裳を織縫しける事始りや
姪高豐明宮より崩し遠く山に藏しける辰后欽明帝沛治
二十年二月十五日行幸ありて一七日崩死し給ふ即ち八幡宮神
倭現し天皇小龍宣多し聖德太子十六歳の沛時守屋連治
の為七日恭養し靈驗ありし朝敵亡し給ふ役小角も亦入唐
名新羅し文武事大寶元年四月八日より一七日崩死されし
其後より小崑崙の王も廢されし殊ふあり淡路某の某も掌
さし益かりし示現あり又僧正の基もく小龍皇て元明帝乃
勅をうけし四十九院を成就し又弘法大師も天長三年四月十六日
吉布郷西林寺より一夏の間に小落して三密の觀念ありし一理
坐禪の座も崩れんとす時方小僧老伴ありて多小錫杖をつれ
て迦陵の沛声響ふ大師に告ぐ曰

歸命金剛秘密佛

靈智令法久住世

爲度末世諸衆生

世間出世利群生

誓首八幡大菩薩

示現神通度衆生

斷除十惡爲十善

覆護衆生能與樂

天長五年天下大旱魃也淳和帝の詔を蒙りて六月朔日より一七日
祈禱を施法し終ふに忽ち女龍王八大竜神現れて雷雨影
又仁和二年四月十四日菅原相道明寺より神を奉りて時安社と奉祀せし
は神童を人柱せしり現れ寶劍を授けり今筑紫安樂寺に傳はり
空形人其後後冷泉院神宇示現ありて神廟の宮殿を改築南へ
去幸を所許よりて嚴密に神宇を修補し終ひて大正天皇御在位の宮殿
とあり又嘉祥十二年吉日とありて諸の山陵へ荷奉の官幣次
なる所なり延喜式に奉根原等小見えたり右大將賴朝卿
建久七年小社頭伽藍新小造營ありて神神領方四十町也

定めて北條九代足利十五代相續く賴朝の舊例に倣ふ所額を

後冷泉院の神宸額より縁起を永享五年孟夏廿一日征夷大

將軍元大居士兼右近衛大將足利義教公の墨蹟よりて画と土佐

右監光信より已上社傳或い愚童訓星霜移りて東海の三ノ宮東田

少るるを以て天正の以平信長親臣四十町の神領と悉く没収せしり

豊大閣の時時貳百石の喜捨あり其後將軍家國初の時時山年貢

等所寄附あり委に社説不見えこれいふ小畧なり今い境地方五町小代々

○當社四季の神事あり正月十四日祭をうけく曲物小あを入まね小同族の年中の

水斗何合し知る是社宣の役なり又二月和印日種々の神供を捧ぐ作法あり

檀輦四月八日宮の例祭なり車樂二輛出ると小唄を奏する笛を撥弦を難し

隔年よりて又嘉祥三年の儀あり右支離方南にあり

放生會例年八月八日より神式始り十四日寅の上刻小神樂を奥院へ神

式十五日午時外本社に遷りて神樂を捧ぐ神樂孤奏をむりて神樂あり

十一月初卯日宵宮より神樂を捧ぐ是神樂の祭式なり十二月十四日

降誕日也い神神事あり産舎孤雛の目をして作ら故に卯日孤雛日といふ

譽田例祭
車樂



譽田の車樂
古風あり
外の囃子
遠くこれ
だんどの
始り



譽田宮神寶

額後冷泉院當社傳記詞書足利六代將軍晉光院義教公繪

後西院時當社傳記土佐將監光信奉人皇百十二代帝

神馬額朝公寄進鈎鏡已上四柱建久七年當社御弓

御矢額朝公寄進鈎鏡已上四柱建久七年當社御弓

太刀栗田口藤馬允利劍大原納曾利面聖德太子大太鼓

庭幡龍頭足利十代義植公寄附書狀數通豐臣秀吉公

堆朱盆秀忠公寄附雪月花一軸大樹家光公山姥面家光公

散手一面二舞貴德一面俱小信貴天童一面勸進僧陵王一面

退走德一面還城樂一面俱小信橋退宿德四面內三面律師淨真作

翁面乙御前面三箇月面日光驚繪帝鐘元朝鐘元朝鐘元朝

百馬画趙子昂花亭書畫明相國臺軍鑑大星朝白井秘法

神功皇后尊影酒井真人應神天皇法橋住吉太刀永井伊賀守大朝臣

五色鏡水晶三角王硯一面花生一籠青磁香爐

雲盆堆朱香合揚茂作龍文錢和同新圖緣起

立卷大橋哥儒歌尊道親王大自在王菩薩影空海自佛舍利

重政筆青色一粒八組相兼五銚三銚獨銚弘法大師閻浮檀金如意輪八分

般若經弘法紺紙金泥法華經文備天神愛深明王弘法大師

三尊種子曼荼羅中將姫城物不動明王智證大師兩界曼荼羅

理源大師釋迦羅漢宋朝僧涅槃像古法眼弘法大師影真如觀三

衲袈裟高屋城主畠山尾張守寄進秘して他見を免さば

奥院寶器

大自在王菩薩尊影聖德太子佛舍利一粒釋尊十六善神弘法大師

興正菩薩影自作十六羅漢住僧教也書翰二通尊氏公秀吉公

地藏尊

本堂小安堂に菅野相の作也式尺三寸

觀音堂

本堂の東にあり安阿弥の作也式尺三寸

塔礎

本堂の東にあり真柱の古礎小部も字を

明星水

本堂の東にあり十六礎あり

龍池

南の方あり傍小

欽明天皇

十三年冬十月百濟國聖明王擇迦の金像幡蓋

經論

若干紙將來呈て帝に獻てて曰文佛法と申ハ諸法を

中

小最殊勝の道あり周公孔子も奥意を悟る事能はざる群生

と利

て功德無量之初天皇より物々震且を流通二韓も亦

崇

天皇され紙殿聞有て即歡喜踊躍如是微妙の法を朕

諸邦

みかこを公體に我朝獨豈これ小智人哉也帝小同意

なれ

其時物部大連尾雲中臣連孫子議奏して曰それ我

國家

の天下と天神地祇百八十神次四時小節ありて守護と

人代

小連んで一十有餘年異國の法を修せたりて國家清平

たる

年萬國小勝なり今更西蕃の神祇好祭一々を思ふ

我國

神の怒ありんや遮々奏達これ天皇佛像と稱同宿禰小

賜

我大屋折悦して小墾田家小安堂其後向原の館を寺や

那

て向原寺と号に已上年家續りて聖武帝の御宇西大

寺

の監真和尚に紙修補し又弘法大師もこふ止棲し終ふ

其後

建長六年の春又西大寺興正菩薩再興して律宗の淨刹や

か

たり昔日を封境底大なり七堂伽藍僧坊魏々寺產世六所

あり

舊圖小なり中古騷擾の患小罹る今の如く此精舎や

形

寺小弘安四年の文政官符あり又興國年中に國室教章弘

安應

永年間將家乃預文文永中の流記教通藏む其外什寶

教

種ありこふ累代寺説元亨釋書小

玉

院當山の什寶に亘四寸深サ式寸八歩巡り庵一面小星の如く

安閑天皇陵の土砂崩れ落し其中より木など多く出てこれより定めし
物よりなり其地を村内田中何某やうの農家の持地なり當ちふ藏む

太政官符曰

太政官牒河内國西琳寺

已下全文省畧採要文

雜事卷箇條

一應停止四至内殺生事

四至

東限飛鳥庄

依為太子御廟四至内
下官符被止殺生

南限岐子庄

依為山門西塔領
往代禁斷殺生

西限尺度庄

依為根本法花堂領
往代禁斷殺生

北限譽田陵

依為大菩薩聖廟
下官符被止殺生

上文畧

仁祠也草創年舊先於天王寺三十箇廻

花構猶新不侵風火水七百餘歲古今奇端不

河三ノ十二

可勝計其中女人入金堂之時地忽破裂盜賊
偷銅像之夜天變白晝勝絕之趣翰墨難覃持
律成群三衣一鉢之支雖乏行業積年天長地
久之勤無怠加之西多青塚皆為上古帝后之
陵廟南有靈岫則留聖德之芳骨旁見地勢不
便殺戮矧乎寺邊二里之殺生者聖主累代之
禁遏哉因茲且任上官之記文依知識之誘引
士民同心雖傳殺生權門之徒都不釵用或點
諸廟而為狩獵之場或上一河而為釣漁之愛
無漸之至何不炳誠登請聖斷永停止四至内
殺生之旨被下者若弥仰聖化奉祈寶祚者
正一行大納言源朝臣定實宣奉勅依請者

弘安四年五月廿六日

弘安者鎌倉將軍惟康親王之時也全非大内裏之時
此外二箇條之官符二通畧之同年號也

又會我またわがとてとて出古市村の小會我川こわががはのあといふ

賜^ヲ吾^ガ
吾^ガ儔^ハ
常^ニ者^ニ
世^ニ旨^ニ
等^ニ酒^ヲ
壽^ニ餌^ヲ
畢^ニ香^ヲ
乃^ニ市^ヲ
起^ニ不^ニ
節^ヲ以^テ
歌^ハ直^ニ
買^ス
手^ヲ
掌^ヲ
摻^ヲ
亮^ニ

櫻白あけつる中ふを急いそにいの一いちか新枝しんぎもさうりて了しませねば
後人ごじんを定さだめ

石川の一名石川郡より流る古市に至る。東我川より入
難井を属く安宿志紀南郡小入る。

古市の南高屋より古市高屋丘陵を経て天皇の妹神奈

勾カキ 二ニ 兄ケイ 廣カウ 國クニ 押オシ 武ブ 金カネ 日ヒ 天テン 皇カミ 男オウ 大ダイ 迹アト

不長
可長
得子
竟也
直母
直曰
竟目
竟子
竟媛
竟是
竟天
竟皇
竟為
竟人
竟牆
竟宇

天^ル十^レ不^レ
皇^二可^レ
于^ヲ月^ヲ往^レ
河^ヲ天^ヲ窺^レ
内^ヲ皇^ヲ拉^レ
舊^ニ崩^ス
市^ニ子^ニ寬^ス
萬^ノ勾^リ
屋^ノ金^有
丘^ノ橋^人
凌^宮
以^時
皇^年
后^七
春^十
用^是

皇女及天皇妹神前皇女合葬于是陵

安閑帝陵の南小隣、古市高屋墓中、称は皇室女、
仁賢天皇の女にして、安閑天皇の皇后なり、更ノ名

吉市古_延浦邑ふあり延喜式に_出今八幡山と_云ふ
藏王持現祠あり

安閑帝陵の山はもと東西北南に括弧八間南に武格を間墟址の
石像の不動尊孤安王と傳ふ應永年中富山義深初て

高國を領し、小城を築く。明德年中、其子基國、南朝の解
高國を招降し、國士和田隅、甲斐等多く麾下を従はせし
是

河三ノ十三

家臣遊佐 舜見本沢爲（分金）て家臣代々以奉ハ明德記應

仁記にきにか力ちから加くわふは織おり田ゐ彦ひこ信のぶ貴き山さん久ひさ秀ひでと亡なむる其その時とき高たか政まさも

浦村あり 禪宗黄檗派本尊阿弥陀佛又毘沙門

日村小あり坂門原陵中称又何鬻山後ももりしけ

又髪白くして髪白く
あり
后白髪中
白髪武黄國甲維日本根子天皇清

生瀬ニ而幼カ白武ツ髮天リ長皇チ而ニ愛弟ニ民三ニ中子ニ署也ニ五母ニ年日ニ春葛ニ正城ニ月韓ニ天媛ニ

內冬生
坂十而
門一自
原月身
陵葬最
而愛良
五年春
正月升

壘村（壘）あり
 壘（壘）子壘（壘）より
 地（地）名も
 壘村と号く
 義（義）いふ
 壘（壘）子壘（壘）より
 伊波谷（伊波谷）全
 壘（壘）の客を
 壘（壘）子壘（壘）より
 壘（壘）子壘（壘）より

河内志より將墓を記さう半一沐く考は
 糸糸のむそのおもんう

延喜式に今王宮中秘伝

肉積しほあり利厲りき戸宅とく等らく 推お古こ天皇十五年秋

井村ふあり心宝とや号に奉る十一面觀音ひとまの春同えさけ燃長式尺をす
聖德王沛の毘沙門天孤宴を長八寸鎮守牛頭天うしづめ宣狐ぬる

肉ふあり 行基大士塚あり
泉也 時 多きなり

駒谷
金剛輪寺



光善所と
かゝの実地
あゝりかゝるふ恒の
友とやうふ
おくはとさきと

駒谷

駒谷村古市より駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

駒谷の里に駒八町斗りて後連うり大和街道竹内峠

杜本神社

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

杜本神社二座並テ名神大月次新嘗

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

十六山金剛輪寺

貞觀元年正月廿七日奉授河内國杜本神社正

四位下

公事根源曰

四月上申日河内國小侍杜本神社のまき年日使

仁和五年四月小侍杜本神社のまき年日使

杜本神社延喜式小安郡郡中記

杜本神社延喜式小安郡郡中記

杜本神社延喜式小安郡郡中記

杜本神社延喜式小安郡郡中記

杜本神社延喜式小安郡郡中記

杜本神社延喜式小安郡郡中記

杜本神社延喜式小安郡郡中記

杜本神社延喜式小安郡郡中記

七月六

子堅

五
亥

安書院

駒台村より巽の方三町許あり梅中に石洞あり瑞菫別天皇中
伊波別命袁登賣命祇祓事ありは處々瑞菫別天皇の爲

河理を講たづひ明日丈倭幸一衆は所不獲たづて
 同綴たづひ明たづひ明日丈倭幸一衆は所不獲たづて
 當摩たづ倭たづ踏たづ安宿郡五十村市と國名より河内縣

日本紀又古事紀曰

仲皇子將殺太子子前宿祿漢直祖阿知使主三

河三ノ十七

[illegible]

十六山家藏之品々

日谷稚宮之碑

堅き尺五寸 横八寸

伊波別命

腹 瑞齒別天皇

袁登賣命

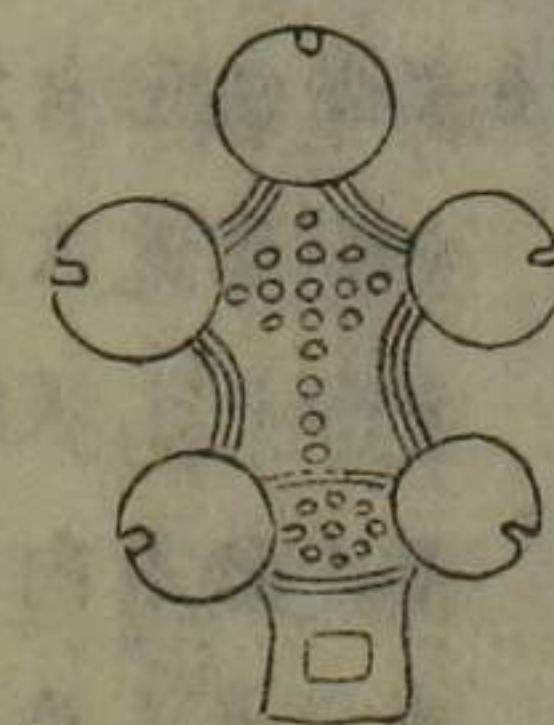
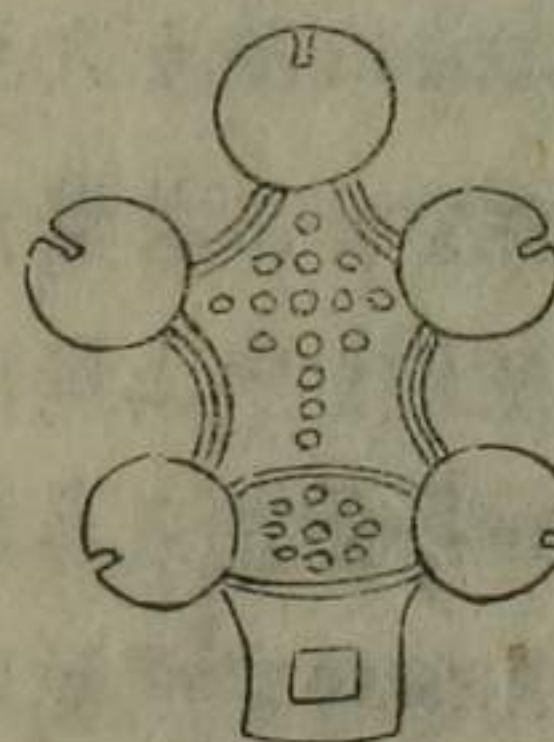
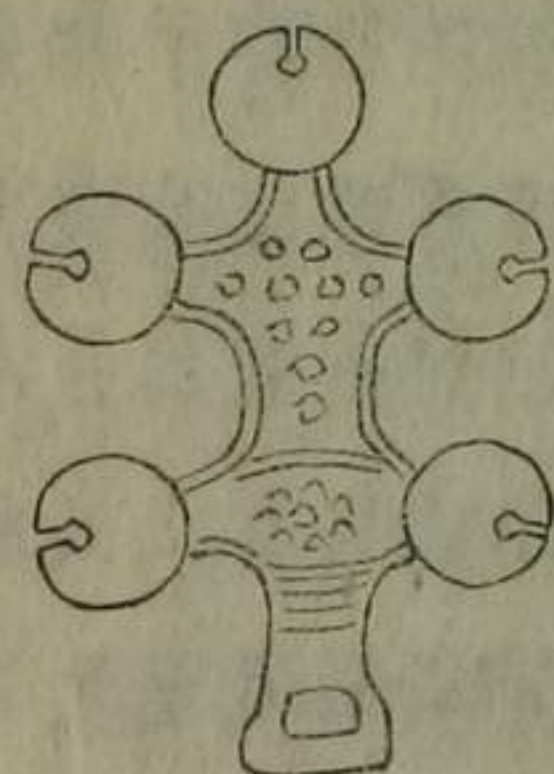
背

維日谷稚宮者

反正天皇一夜

被禊之旧蹟也

古鈴之圖

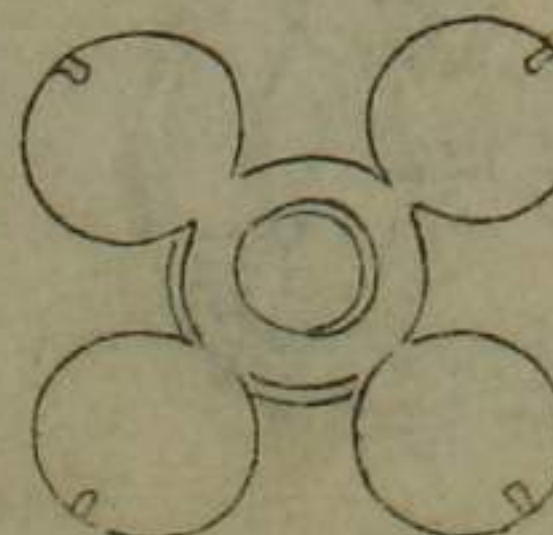
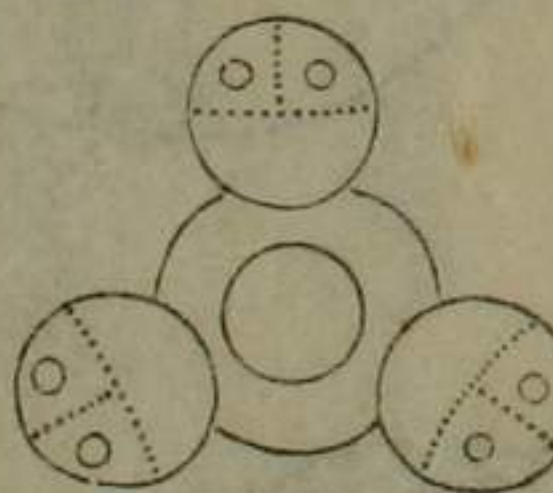
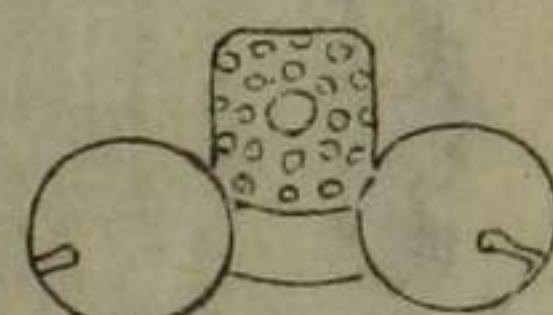
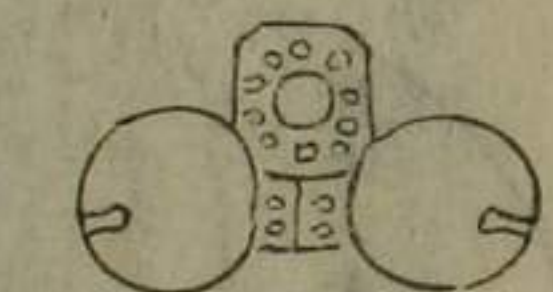
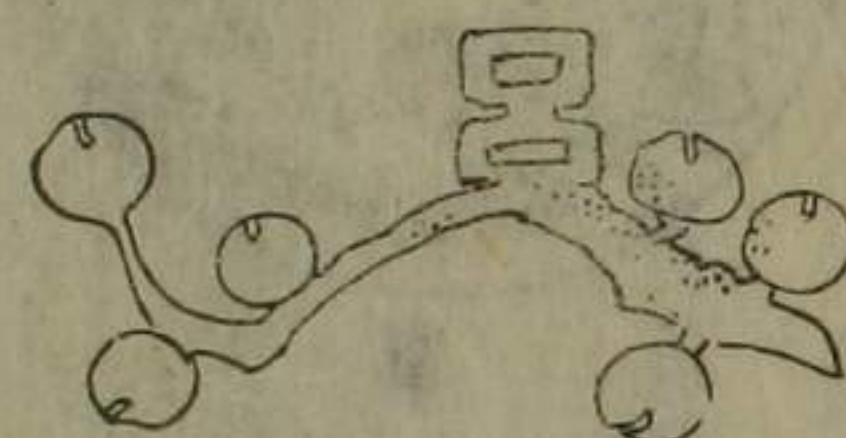
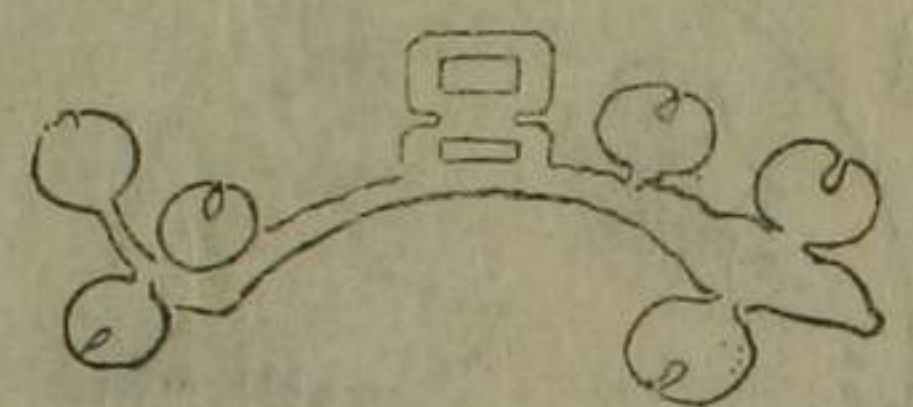


古鏡



高二尺二寸
横三尺八寸

碑趺共自然石也

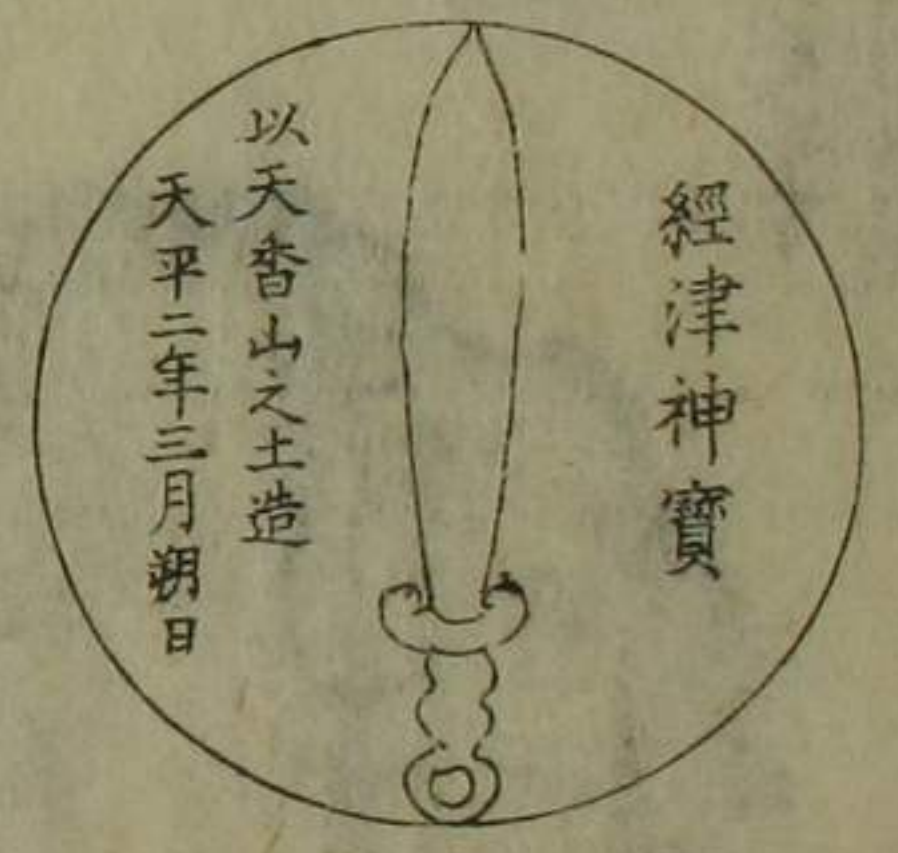


其二 土鏡 巨 七寸九分

表



裏



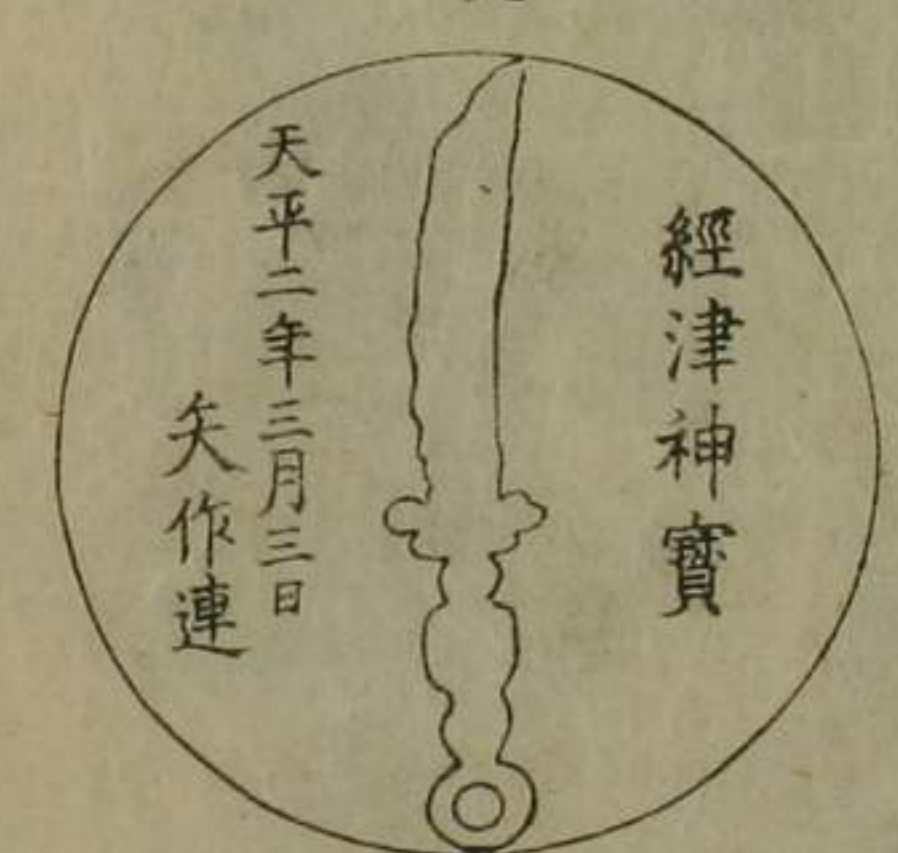
古瓦四品



表



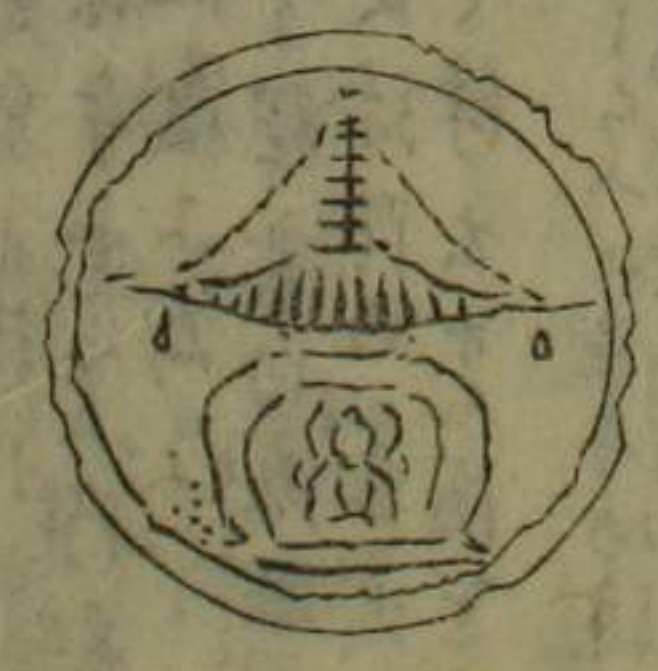
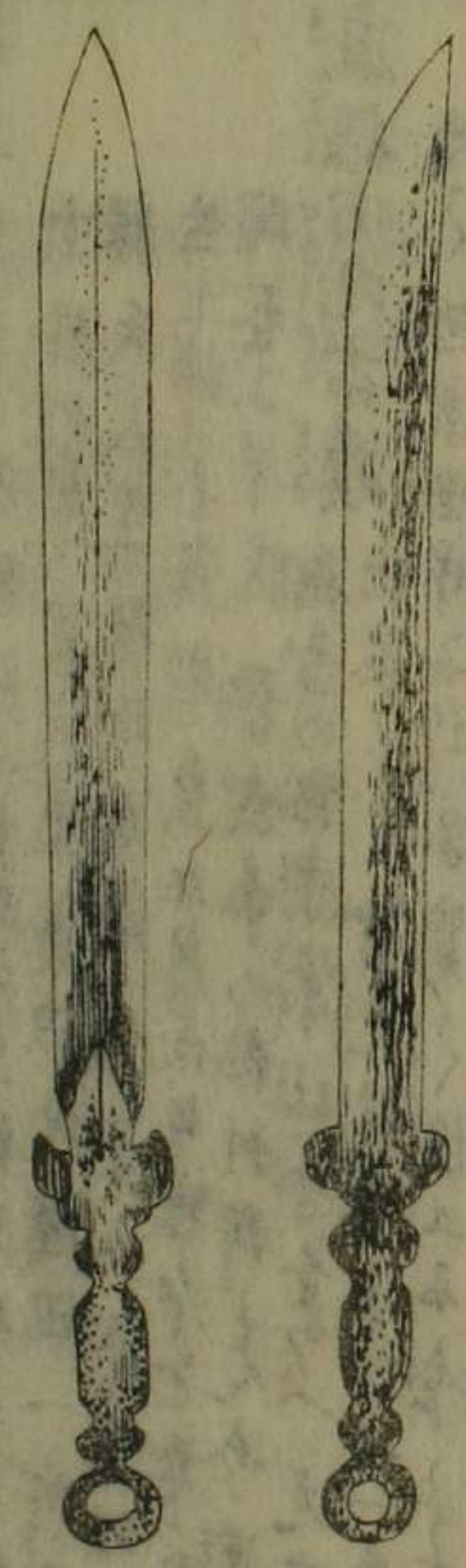
裏



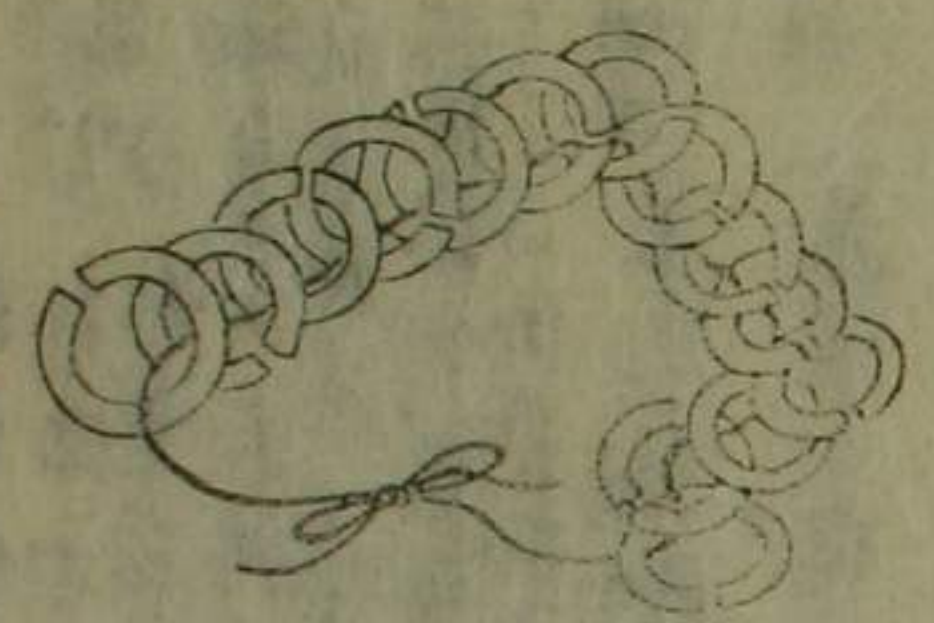
布目有

河三十九

師 各長 壹尺七寸六分半



金環 十五ヶ 徑七八分

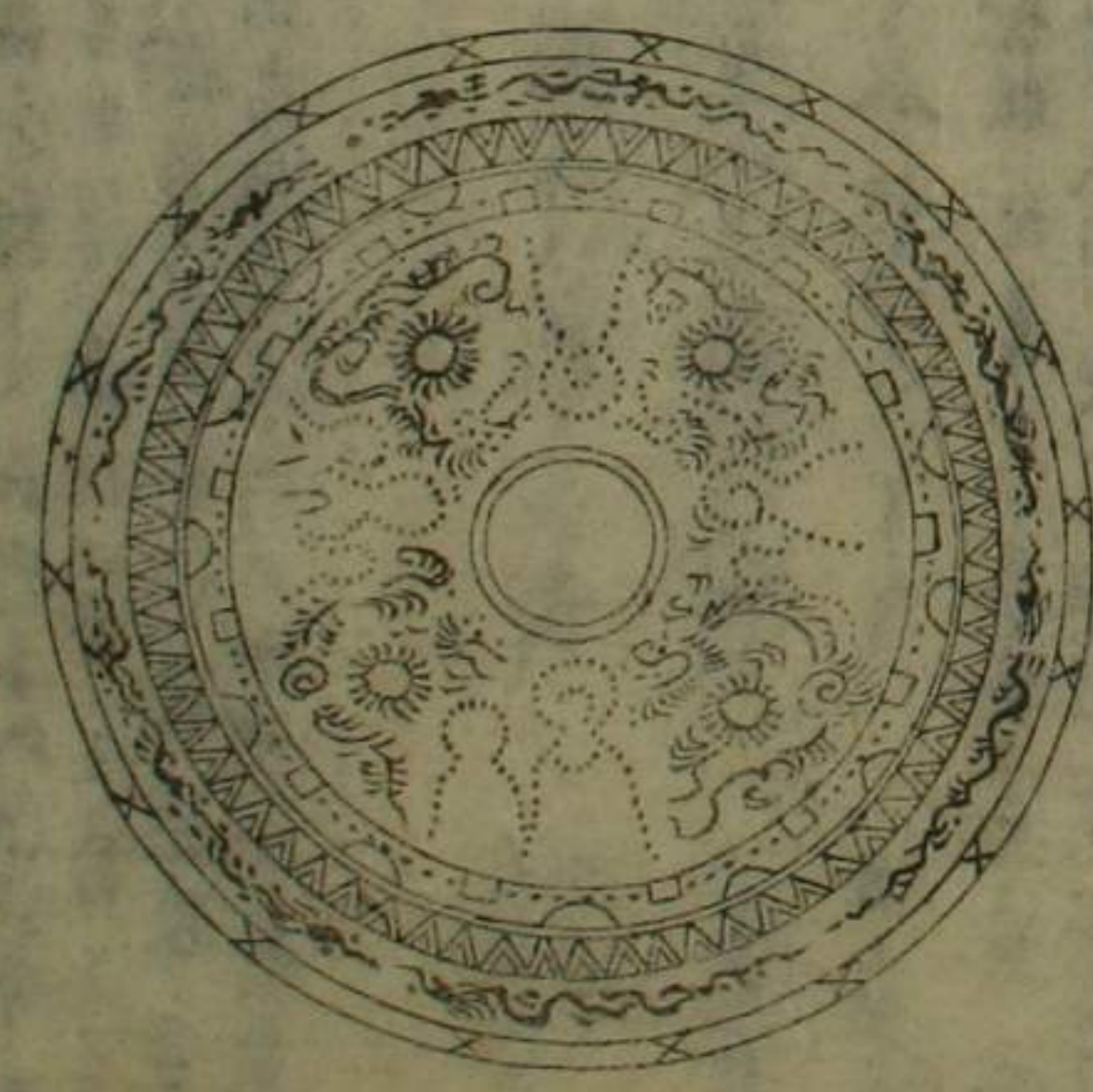


青色



句玉 七ヶ
管石 七ヶ

古鏡二面有 長八寸

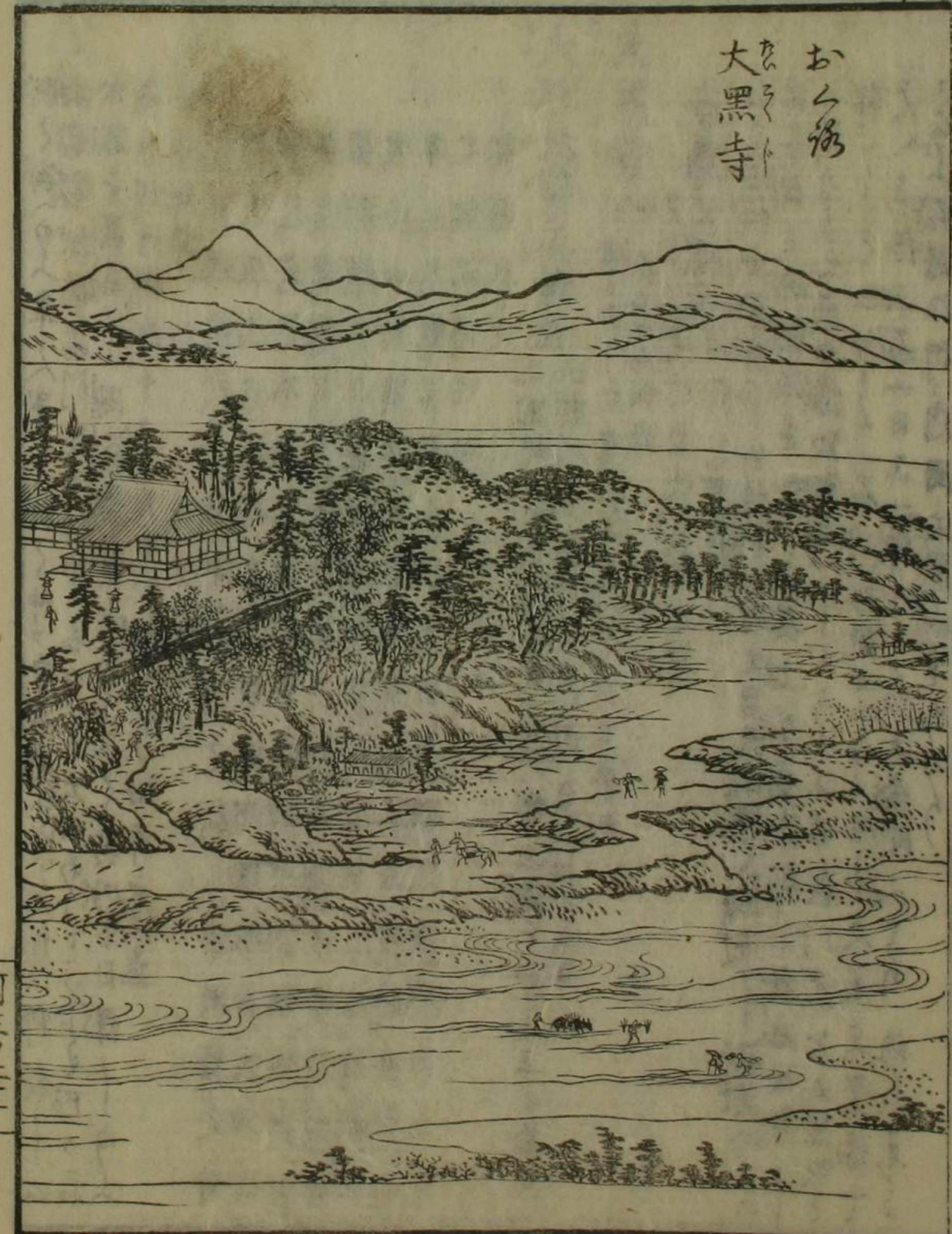


むく役優婆塞尊戒練修の時丈黒天山頭不出現一孔崔明玉の
法を授け徳驗道を修め其上臈金支那の密法を修め
之より出現の像が彫刻しててうみ安ん門前を丈黒坂と
稱し一くはやくり石川の流せん中より丈黒文かん像を
んくくか小石一日一神門あ上金剛山より流れ来る
とく石護に河内國丈黒石をちてり



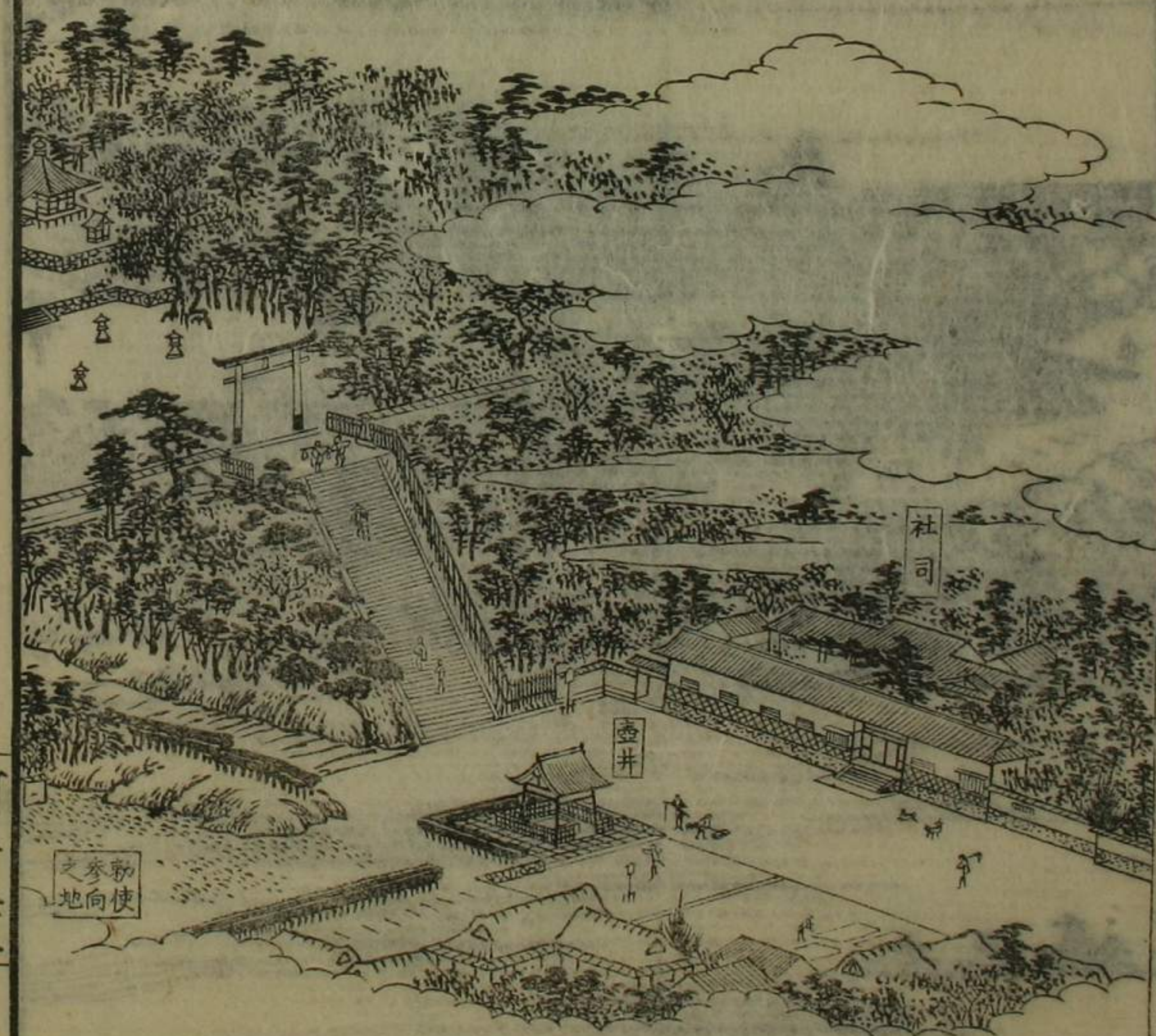
八王子権現

頼朝塔



おろろ
大黒寺

壺井八幡宮
つやのふちやんぐう

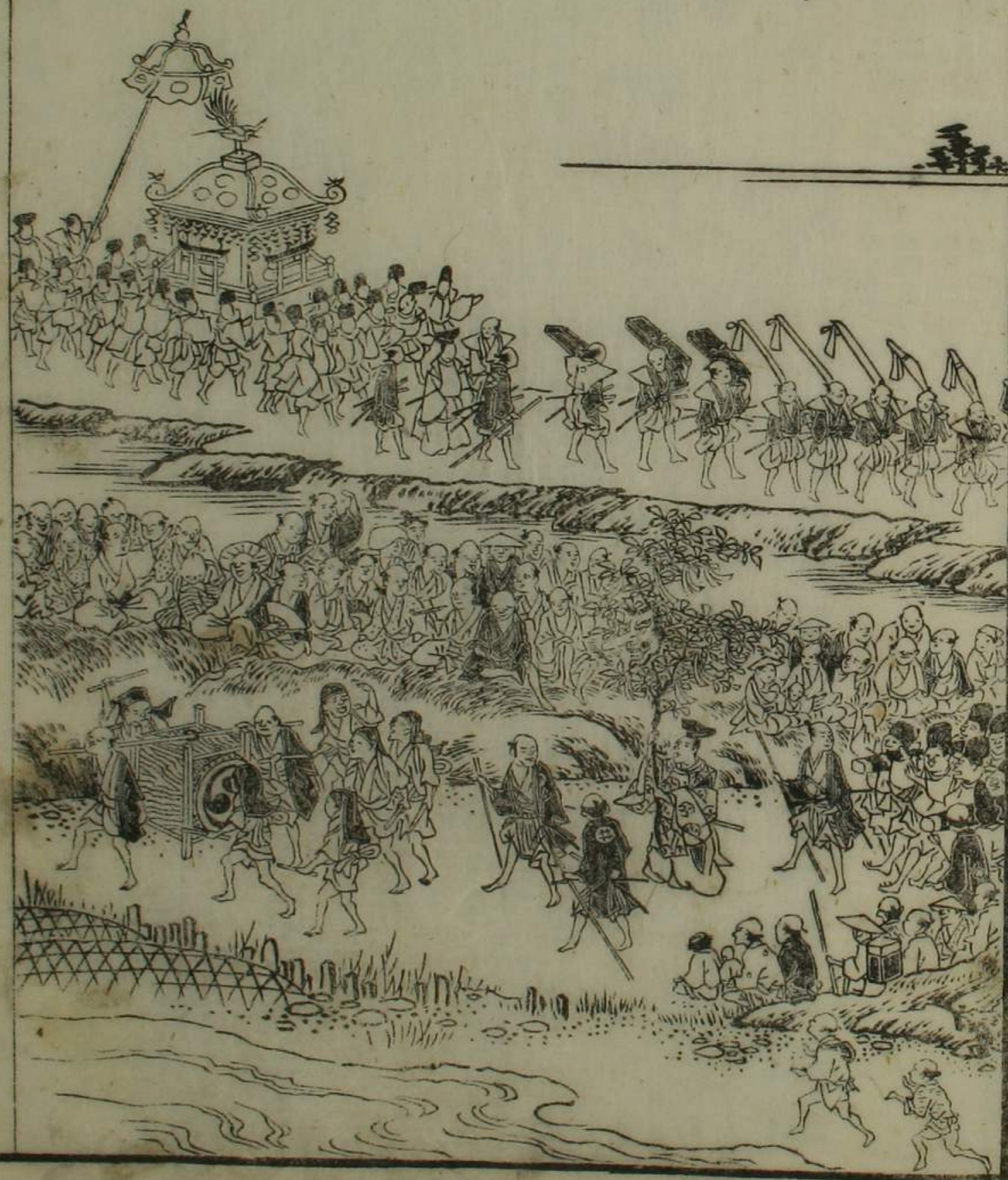


奉社

壺井権現



壺井
例祭



當社の例系と誕生二日午の刻より神樂三基所（波津あり）
初めと穀糠田彦神八本の鉾三張の弓矢を刀鎧金蓋三柄神供の唐
櫃供奉の社勢を子樂小乗と歳事小列を祀し其外社家のめんく神樂
乙女神人官仕習前後供養し石川河原の芝生を四阿屋に志しひきと
神樂所よりてあむれしなる年よりて供水ありよりて延享年中より
神社の西の方義家公此所廟のわたりて改王居原此地を源家三代武將
居城よりて河内列を任國之故八幡宮に勧請し二代の墳塋も近隣あり
又むく化輪寺よりと源家公これと頼義公奥羽征伐の時歿身方亡平
家退後の為不建られ本寺も慈覺大降の他より阿弥陀佛と安んじ後世
寺を形よりて化輪寺救金堂並に圓の字を形よりね源家公を護りて中
壺井の什寶と形よりねむか一雙の地よりて源家の領と見えより
後世に伝へてよりて麻姑の桑海を見えより
石丸山通法寺 通法寺村あり宗有真言新義
和別長谷寺に属し

本寺阿弥陀佛 親名勢至の二尊定額也
不動尊 長六尺 十一面觀音 長六尺餘
右の尊像元禄年中 常憲院殿に寄附
觀音堂 本寺千手觀音長五尺五寸許 源頼義公感得
又より親名今洞佛あり 頼義公甲の内ふ安んじの靈を
鎮守 又思を神八幡 上ノ社 稲荷の三尊公あり
當山法會七月十七日十八日
頼義公魂舎 觀名堂の中
頼信公墳 平堂の異 義家公墳 頼信公墳よりを所斗
二所許あり 奥ふあり
當山と初河内守源頼信公の館舎より長子頼義公相傳してより
居住し終ふ終ふ此地の東北ふ仁海上人の舊跡ありて仁海公と云ふ
ある時其谷より光明赫々として諸人奇異の云ふなり頼義公
靈光の原を尋ひ終ひし大患の靈像ありより則長久巳年
九月に感得し終ひく城中ふ一字に精舎を建營して通法寺
と號し此所ふ終く八幡を即義家公賀茂次郎新羅

三郎等より不出いしだえ誕あり其後平相國入道よより出いく源家
 表おもて裏うら一ひと只ただ僅わずかの茅庵そうあんに感得かんとくの大悲尊像だいひのそんざう一ひと神かみのま在ある
 年とし久ひさし後こう世げん元禄げんろく十三年辰の春

大樹
常憲院殿尊君台命孤下々々今の如く建立ふべし

諸堂（ちうどう）巍々（ゑゐゑゐ）とととと源家の宗廟（そうぼう）とととと形う如

源頼義公の河内守頼信の長子、一條院平守利官代小叙、河内
甲斐相模上野武蔵伊豆等の國守、公爲、永義五年、唐奥國
の強賊安倍頼時、礼を賜へず、中を搦め、時頼義公
詔へ、陰奥守鎮守府將軍に任じ、賊軍を殲め、平年、所
あり、遂に射殺せし、其子眞任、支黨を率ゑ、官軍を殲め、
攻め、遂に射殺せし、其子眞任、支黨を率ゑ、官軍を殲め、
康平五年に至り、義家義綱及び清原武則、俱り
眞任に謀り、其子宗任を擒め、凱陣の日、正四位上、茂
賜ふ、又民部少輔に任じ、左馬助を兼ね、洛陽西六條に
住して、紫闕を守、護を奥列征伐の時、故兵公多く討て、
其耳を斬り、都に登り、城ふと老く、退後、一字公達て
られ、公耳納堂とて、旧都名所、國會拾遺に見え、なり、頼義
老後、佛門に入り、永保二年、五月二日卒、初、奥列征伐、公
時、兵公、濂倉に屯り、東國の豪傑、令に應じ、これ、公屬を
頼義、禮を厚く、功を挙げ、恩に賞、以、治平、公、後
諸士、惠に懐き、とみか、なり、源氏の豪族、と、稱し、

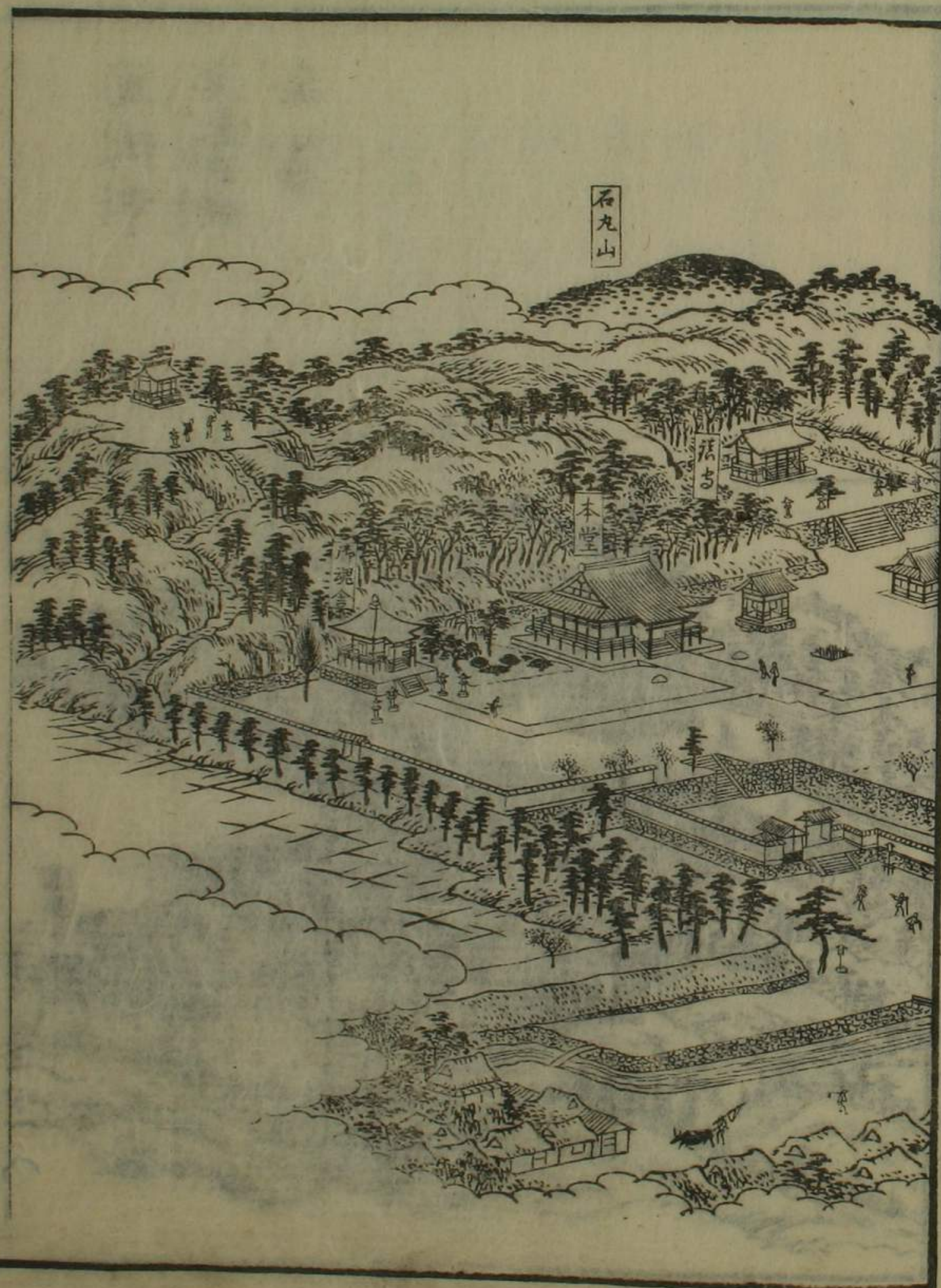
河三ノ二六

郡宿安

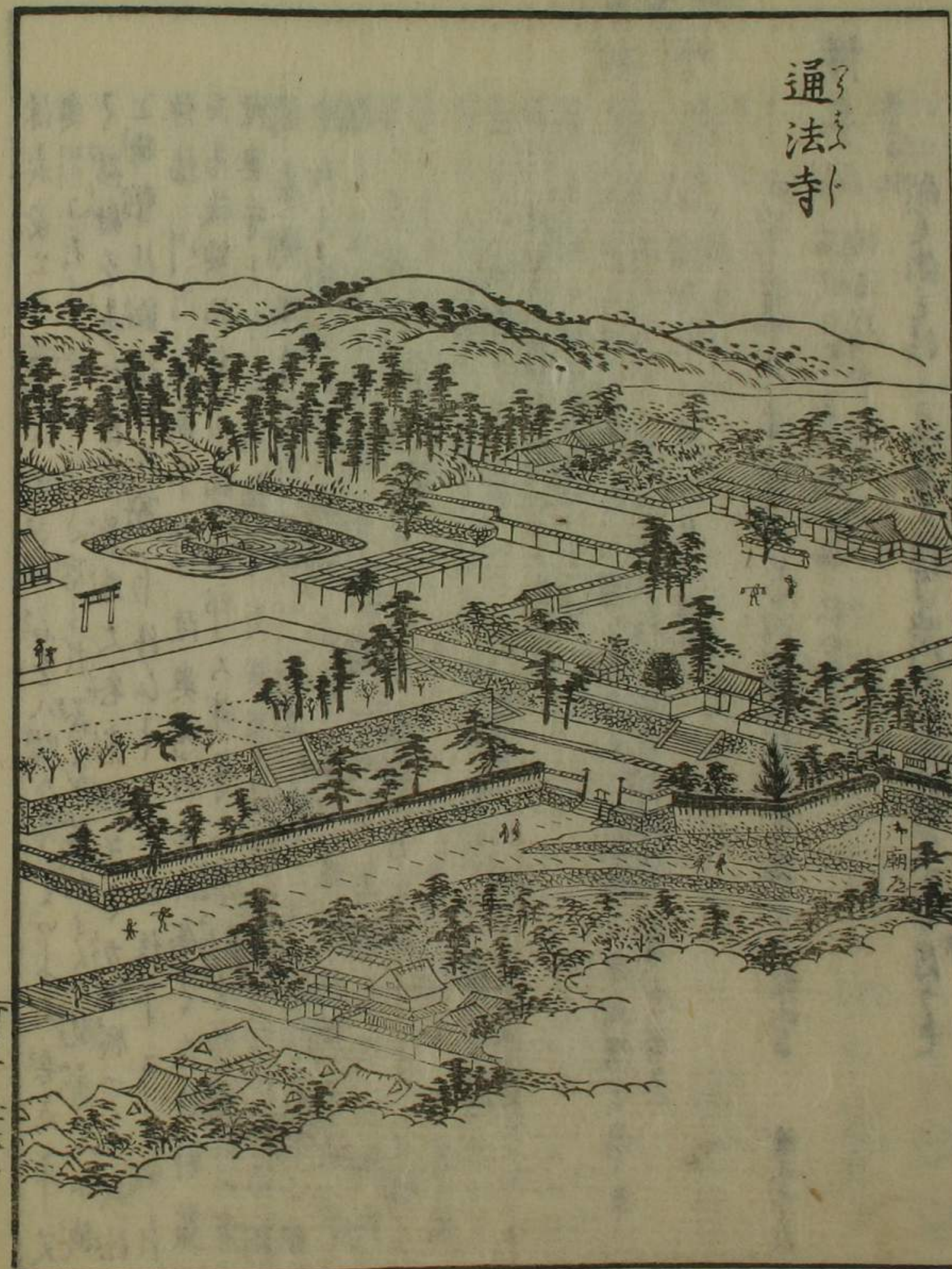
安宿郡東と相模葛下郡の界を限り、志紀郡の界は限らず、南は石川吉市二郡の界を限り、北は大縣郡の界を限り、
片敷山圓明王寺、山名二村の

博多川 かち 船や戸 あ 山の戸 な に き 花や を 信 そ せ る

續日本紀
瀧之瀬を清くするに波可及川ちよみ公始てすある月うを



石丸山



通法寺



通法寺
源家武將
廟墓



王村あり淨土宗蓮慈風
洛東慈恩寺小藏を常行念佛を授け

惠心傍都他座傍長丈六
膠檀鉢院三尊慈覺大師他

瑞龍院殿二品前亞相天蓮社順譽源正大居士

尾張大納言光友卿之

寶冠疎陀を安んず
弘法大師作

境内にあり
尾羽公より寄附

山頭ふあり
園信庵と云

役^の切^り者^はと聖^{しやう}宝^{ほう}堂^{どう}に作^{つく}れ
又^{また}令^{しやう}洞^{どう}の虚^こ空^{くう}藏^{ざう}を安^{やす}ん

當山絶

勝の比く病の旁と難波の萬戸所城川々
四天王寺住右社甥の浦延海遠帆

小石
路
獨

摩耶六甲の翠巒を眺み、
 して妻の日を傾半はかりに

國見丘
みあり

曼陀羅堂
曼マン陀タ羅ラ堂ドウ
當麻田分一の圖弘安一田方丈
梵フン々ン非ヒ千セン祈キ佛ブツ在ゾウ尺

廟

信のめぐり 菱石座 門石 割みく 又石の籬あり
高二十間斗 左右ふ石 蛇燈あり

の閑
静山
像

懐和当 玉井 閑山 語の 前より 又 當山の 巖より 泉あり 実を 玉を 玉を 玉を

三天山北

り奇翳又毘沙門天

鐘堂ふり庫裏ののあ

當山と原古寺にて行基大士築創く年久く之荒廢

10

宇の竹庵にもあうゝ村老これ守侍ゝ小珂憶和尚也

卷列の序阿て里見義勝とて婦を攝團右衛門の女より團右衛門の元和元年
四月衆を櫻井より殲死せし團右衛門の婦の紀列。執賀城主鈴木孫市らに

金處上人法脈の玄孫にして日我年次果く智學く諸國

時寛文年中此地小来王激妙の靈域より空しく宮子評と得く

開きと漢土宗風の精舎として南山園基と称する其に尾刈亞桐光友卿

佛依一經入佛牙舍利三國無双曼陀羅名號當寺因若千と割く

人司足堂舎巖重小建營あ俗當寺を聖徳太子の時

建方たけかた七なな風ふう管くわん乃なりて高梁かうりやう池いけを怪を垣かきとく枕まくらの露つゆふ埃ほこりトと從したが

萬世不易之父子也
可意達堂不風色

[illegible][illegible]

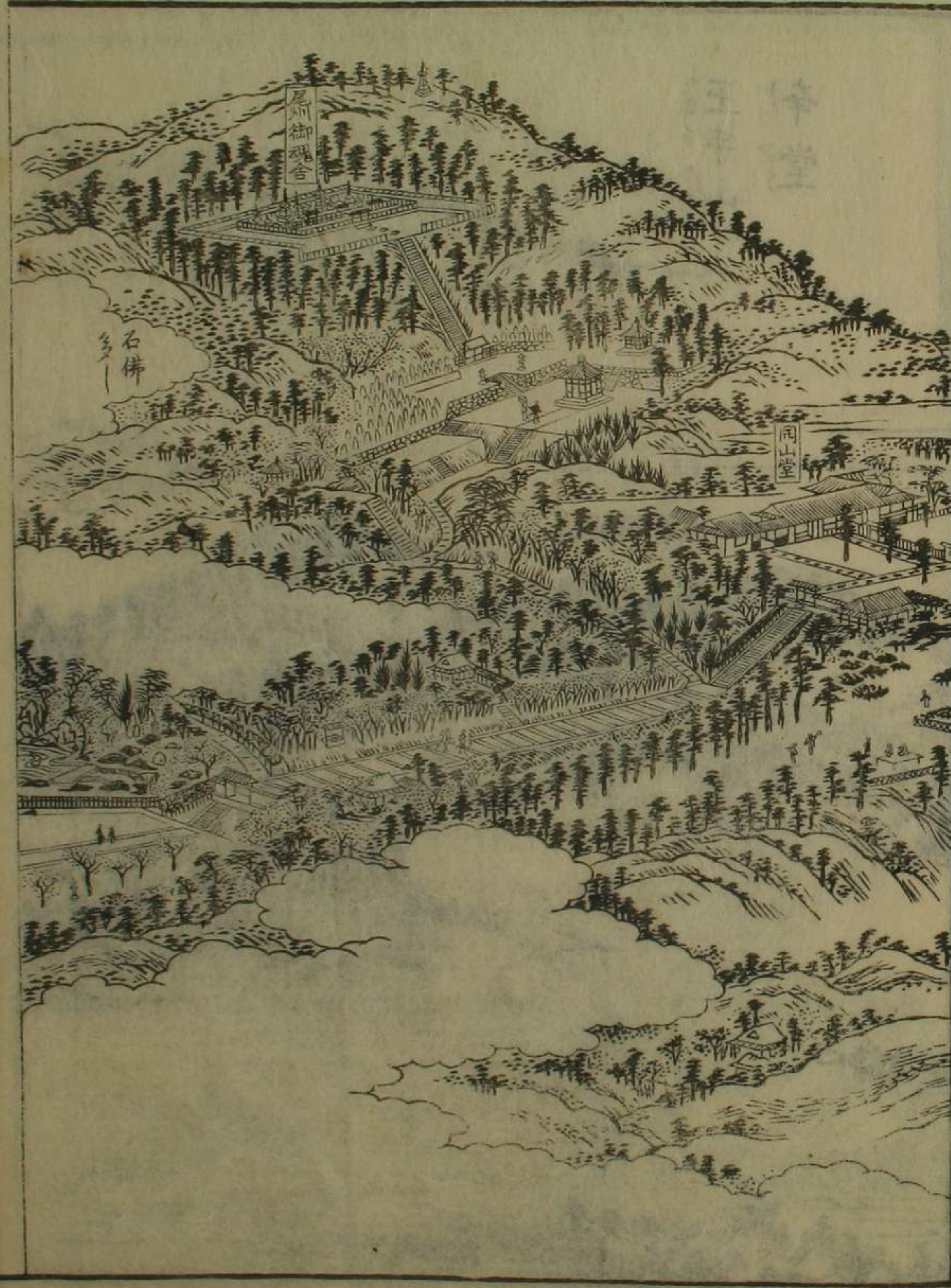
安福寺境内及び東のふもと山頂ふ雲泉あり

手山

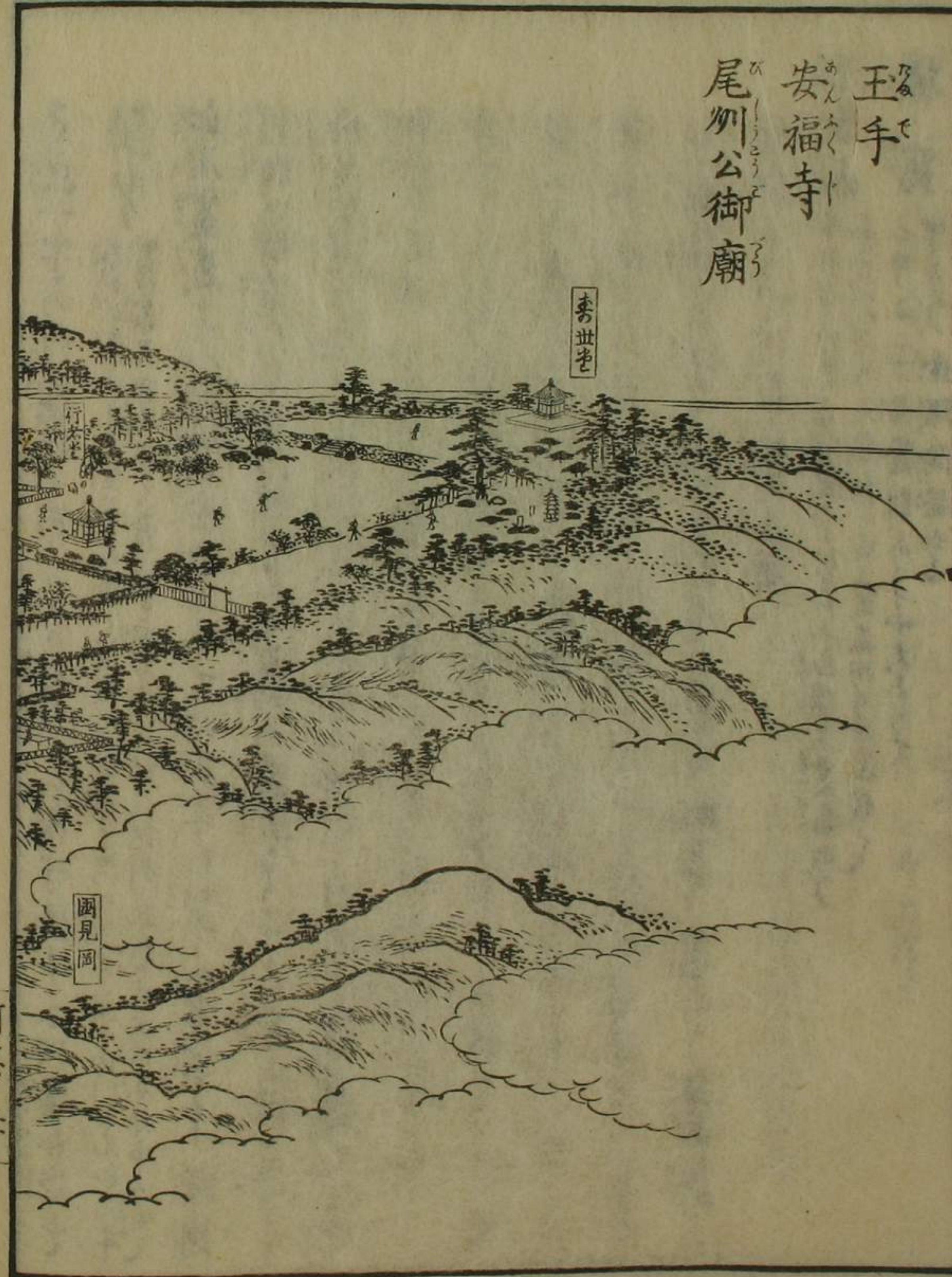
又勝ねとて又本所の所
 中々二十餘箇あり小大ありて

窩

中より金環陶器出

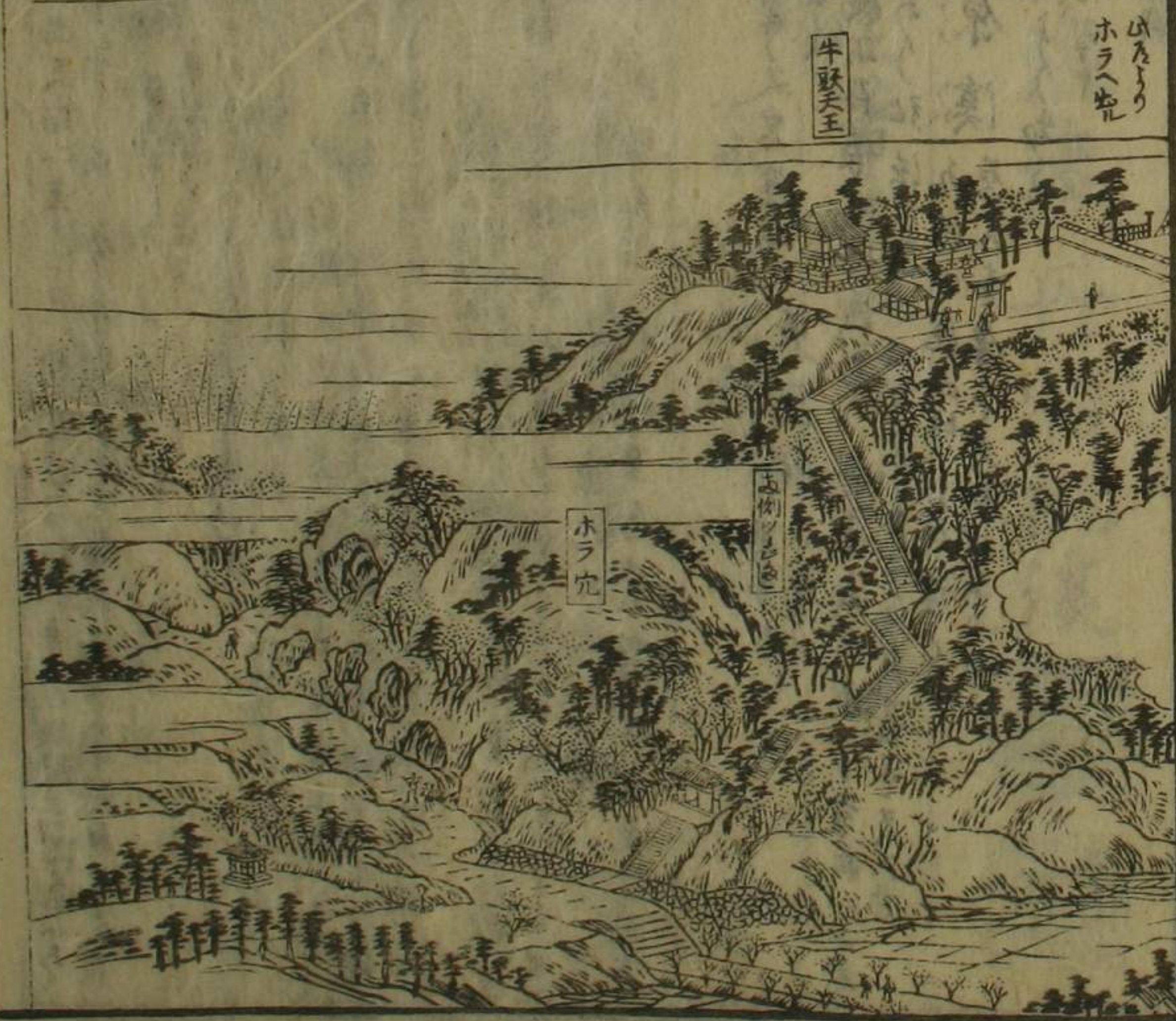


玉手
安福寺
尾州公御廟



國見岡

安福寺
門前



玉手山
本堂



伯太彦神社 安延喜式出天安二年二月額官社云云玉手村後天正寺あり
例系九月八日は色澤多ありてまき

伯太姫神社 安延喜式出天安二年二月額官社云云
河内縣云大坂軍の寄子奥國三郎右衛門

奥田忠一墓 河内縣云大坂軍の寄子奥國三郎右衛門
討死に及ぶ

慶長戰場 河内縣志曰慶長乙卯五月
家臣村倉十郎を敗る

春日神祠 河内縣志云又岩窟小
天王祠 河内縣志云

國分廢寺 河内縣志云國分寺村
枯拙岳 河内縣志云

名産菖蒲 河内縣志云
河内名所圖會卷之三

河内名所圖會卷之三

畫師 浪速 丹羽桃溪

籬爲先生著述品目

都名所圖會	竹原春朝齋画	六卷	拾遺都名所圖會	同画	五卷
大和名所圖會	同画	七卷	河内名所圖會	丹羽桃溪画	六卷
和泉名所圖會	同画	四卷	攝津名所圖會	諸名家画	十卷
都古跡名所圖會	諸名家画	三卷	都林泉名所圖會	諸名家画	六卷
京の水	下河邊拾水画	圖二面 書三卷	東海道名所圖會	諸名家画	六卷
源平盛衰記圖會	諸名家画	六卷	保元平治鬪圖會	法橋中和画	十卷

享和元辛酉歲秋九月

皇都書林

浪華書林

出雲寺文治郎
小川多九衛門
殿爲八

高橋平助
桺原喜兵衛
森本太助

